

第1章 大田区として取組む「観光」とは

大田区は東京・関東圏の空の玄関口である羽田空港を擁するとともに、池上本門寺や馬込文士村等の歴史文化的な環境、多摩川や臨海部の水環境、身近で特徴的な公園・レクリエーション資源等が豊かな地域です。平成20年7月に実施した区のイメージ調査によると「交通の利便性がよいまち」「ものづくりのまち」「東京湾や多摩川に囲まれた水のまち」というイメージが、区民のみならず地域外から見たイメージとして強いものの、既往の「観光」としてのイメージとしては希薄な地域であるものと思われます。

しかし、大田区を訪れている人々は、羽田空港の乗降客数だけでも約6650万人(平成18年度)、また「交通の利便性がよいまち」というイメージがあるように、観光を主目的とする来訪者だけでなく、買物や食事、身近な散策等を楽しむことを目的とする来訪者を惹き寄せている地域でもあります。

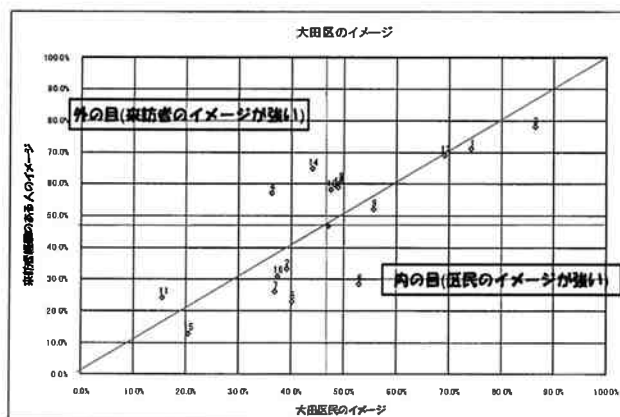
現状では、大田区の資源は必ずしも旧来型の観光の視点からは誘客力のある資源ばかりではありませんが、見せ方や伝え方の工夫、他の資源との連携により、観光としての新たな魅力が顕在化する可能性を秘めているとともに、観光による振興を引き金として地元商店街の活性化、ものづくりを中心とする中小企業の活性化、高齢者等の生きがい等へと波及する効果も期待されます。

このように大田区観光が目指そうとしている都市型観光は、個別の資源だけではなく賑わいや生活感等が醸し出している日常的な暮らしそのものが人の気を惹く集客商品となるものであり、その意味から来訪者と地域住民との交流が大きな地域の魅力となります。さらに、2010年に羽田空港を再国際化が想定されており、地域への集客力は高まりみせることから、このチャンスを活かし、大田区内全体への“往来”へと展開するためにも産業振興やまちづくりと連動した「観光」を推進することが、大田区の都市型観光実現につながるものとなります。

そこで、大田区観光振興の全体像を描くにあたって、大田区の実現する観光とは何か、大田区における観光の意義を明らかにしておく必要があるものと考えます。

【参考】大田区のイメージ調査

NO	まちのイメージ
1	ものづくりのまち
2	緑豊かなまち
3	交通の利便性がよいまち
4	にぎやかな商店街の多いまち
5	文化のまち
6	花を鑑みめるスポットが多い町
7	歴史的な名所や史跡が多くあるまち
8	個性豊かなまち
9	閑静な住宅地があるまち
10	年ごろな価格の飲食店が多いまち
11	老舗や隠れた名店が多いまち
12	東京湾や多摩川に囲まれた水のまち
13	他にない夜景を見ることができるまち
14	下町風の活気が感じられる店が多いまち
15	安全なまち
16	外国人が多いまち



(注)平成20年2月に羽田空港内で実施したアンケート調査(回答者数511人)によると11.5%の回答者が大田区内に立寄ったと回答している。この立寄率を参考にすると年間約760万人が区内の施設に立寄っていることになる。

大田区として取り組む観光とは…

大田区外からの誘客だけを目指すのではなく、区民が愛着と誇りをもてる産業振興やまちづくりと連動した「観光」の展開をめざします。

【大田区における観光の3つの意義】

大田区観光の意義① 愛着と誇りのもてる舞台(ふるさと)づくり

地域住民自らが、地域への愛着と誇りをもっていることこそが、訪れても楽しい地域です。愛着と誇りをもって自慢したくなる地域となること、それが“住んでよし、訪れてよし”の原点になります。

そこで、羽田空港の再国際化を絶好の機会(チャンス)として捉え、区民、事業者、区が一体となった観光振興への取り組みの機運を高め、愛着と誇りのもてる舞台(ふるさと)づくりが求められます。

大田区観光の意義② 人が行き交うこと(人の目)による地域の磨きかけ

人の目が加わることで、より美しく整えようという機運が地域に芽生え、さらに魅力ある地域への磨きがかかります。そのため、区民相互の交流や区外から訪れる人々とのふれあいを通じて、区民や訪れる人が快適に巡り、過ごすことのできるよう、生活環境と地域文化の面での地域の磨きかけに、まちづくりと一体となった取組みが求められます。

大田区観光の意義③ 集散往来による地域活力の向上

区内外からも多くの人々が訪れること、少しでも長く大田区内で時間を過ごしていただくことで、地域での消費拡大が生み出され、地元商店街の活性化、ものづくりを中心とする中小企業の活性化、高齢者等の生きがい等へと波及する効果が生じ、結果として地域活力の向上にもつながります。

そのため、地域の人々が愛着と誇りをもって大切にしているお宝に磨きをかけるとともに新たな資源を掘り起こし、区内外に大田の魅力をアピールして観光客を迎え入れ、地域内を快適に往来する仕組みを創り出すことで、地域経済の活性化をはかることが求められます。